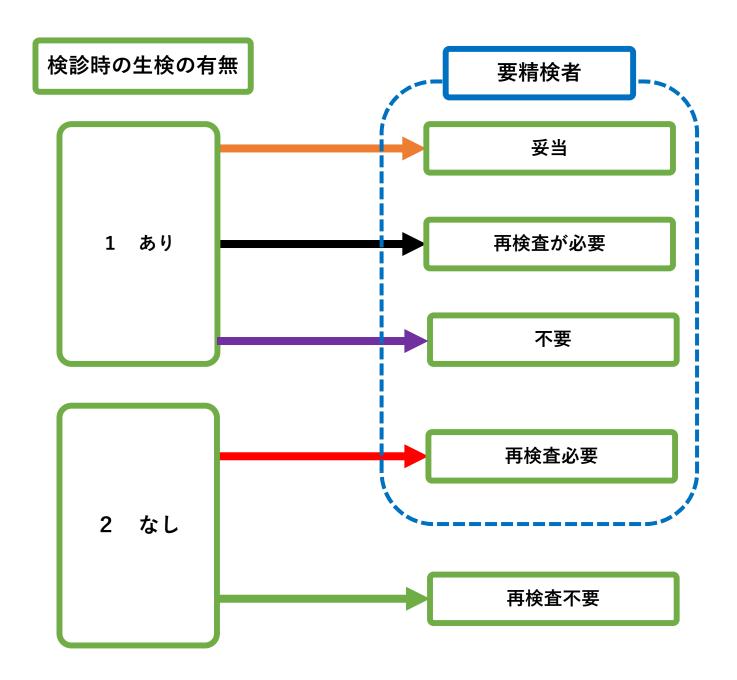
胃がん検診(胃内視鏡検診)二次読影の判定の考え方





精密検査が必要であり、検診で適切な生検が実施されている 精密検査が必要であり、検診で生検が実施されているが追加が必要 精密検査が不要であるにもかかわらず、検診で生検が実施されている 精密検査が必要であるが検診で生検が実施されていないため追加が必要 **様式6** (2 枚複写) 様式6-1検診機関用 様式6-2市町村用

胃がん検診(内視鏡検診)検診票(兼)結果票



 ν/~	#2	5.	z/
バヘ	671	r 1	Ŧ,

所見の部位 (悪性疾患の疑いがある病変をすべてご記入下さい。)					所見の種類		病変	生検	図解		
□所見なし				(1)			(有•無)				
□食道(上部、	中部、下部)	□食道胃接合	部		小弯	□隆起	□陥凹		1)	(H · ////)	
□穹窿部	□噴門部	□体上部			大弯	□平坦	□白苔		(2)	(有•無)	
□体中部	□体下部	□胃角部			前壁	□発赤	□褪色		٧	(月 : 無)	
□前庭部	□幽門部	□球部			後壁	□出血	□集中		(3)	(有•無)	
□下行脚	□その他()				□変形			9	(H · ////)	
						□その他()	4	(有•無)	
ピロリ	菌検査	(0 未実施 1	実施)		診断方法は	および結果 :	1.	(陰性	: ・陽	性) 2	(陰性 ・ 陽性)
胃がんり	スク診断	1 ピロリ菌未感染 記入	胃粘膜 2 년	ニ゚ロリ菌	菌現感染また	は既感染胃粘膜	(A.現感染	B.既感	染 C.	現感染、既愿	感染かは不明) 1.2(A.B.C.)のいずれかを必ず
内	1 異常なし			2 才	萎縮性胃炎					3 胃潰瘍	(A, H, S)
視	4 十二指腸質	貴瘍(A、 H、	S)	5 点						6 胃ポリ	ープ(胃底腺、 過形成性)
鏡	7 逆流性食道	 重炎		8 米	占膜下腫瘍	(部位)		9 術後胃	
診 断	10 胃腺腫			11	胃がん(タ	} 類)		12 食道	がん
	13 その他()								
判定区分	1 胃がんな し	2 胃がんなし	•経過観察	きまた	は治療が必	公要	3 胃が/	ん疑い	4 胃	がん	5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む)
コメント											方 1 経口 式 2 経鼻
胃がん検診中	/後の偶発症の	の有無 1)	なし	2)	あり	※2)あり) と回答の	場合は	別紙	<u>偶発症報</u>	告書_に記載し提出して下さい。
検査医療機関	および検査医										

- ※複数の所見がある場合は、所見の部位および所見の種類欄の □に病変番号(①、②、③など)を記載してください。
- ※生検を実施した場合は、結果を精密検査依頼書兼結果通知書に記載してください。
- ※生検を実施した場合は、生検結果を二次読影時に添付して下さい。ただし「判定区分」の4. 胃がん5. 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む) がでた場合は、 速やかにご対応ください。

二次読影

追加病変の部位(悪性疾患の疑いがある場合にご記入ください。)						追加病変の種類		図解		
□追加病変なし										
□食道(上部、	中部、下部)	□食道胃接命	合部			□隆起	□陥凹	1		
□穹窿部	□噴門部	□体上部			小弯	□平坦	□白苔			
□体中部	□体下部	□胃角部			大弯	□発赤	□褪色			
□前庭部	□幽門部	□球部			前壁	□出血	□集中			
□下行脚	□その他(,)		後壁	□変形				
						□その他()			
胃がんリスク 診断	1 ピロリ菌未感 記入	染胃粘膜 2 1	ピロリ菌現感	やまた	は既感染胃	計膜(A.現愿	Ķ染 Β.既感染 (2. 現感染、既感染	かは不明) 1.2(A.B.C.)のいずれかを必ず	
+	1 異常なし			2 萎	縮性胃炎			3 胃潰瘍	(A, H, S)	
内 視	4 十二指腸潰	貴瘍(A、 H	、S)	5 鳥	,肌胃炎			6 胃ポリ	ープ(胃底腺、 過形成性)	
鏡	7 逆流性食道	道炎		8 料	i膜下腫瘍	(部位)	9 術後胃		
診 断	10 胃腺腫			11	胃がん (タ	} 類)	12 食道	がん	
H	13 その他()							
	検診時の生検	の有無	1 あり	2	なし			コメント		
割	生検 実施あ	0の場合 1	妥当	2 ‡	再検査が必	公要 3	不要			
判 定	生検 実施な	しの場合	1 再検査必	要	2 再検	査不要				
	0 判定困難	1 胃がんなし	2 胃がんな	し・経ì	過観察また	は治療が必要	3 胃がん疑い	4 胃がん	5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む)	
· · · · · ·	二次読影医		二次読影日		年	月日	サイン			

※一次読影の所見と異なる場合は、コメント欄に内容を記載してください。 (例) コメント:病変①は胃潰瘍瘢痕ではなく胃がんを疑う。この場合判定

は 3. 胃がん疑いとなり、精密検査の必要性は あり となります。

※「O 判定困難」と判定した場合は、「特密検査の必要性:1あり」とし、画像評価委員会に画像を提出してください。

様式6 (2 枚複写) 様式6-1検診機関用 様式6-2市町村用

胃がん検診(内視鏡検診)検診票(兼)結果票

現行

V.	∌±	·B/
ťŇ	a) l	R.

所見の部位 (悪性疾患の疑いがある病変をすべてご記入下さい。)					所見の種類		病変	生検	図解		
□所見なし							(I)	(有•無)			
□食道(上部	以、中部、下部)	□食道胃接合	陪?		小弯	□隆起	□陥凹		1)	(月 : 無)	
□穹窿部	□噴門部	□体上部			大弯	□平坦	□白苔		(2)	(有•無)	
□体中部	□体下部	□胃角部			前壁	□発赤	□褪色		1)	(.H .w.)	
□前庭部	□幽門部	□球部			後壁	□出血	□集中		(3)	(有•無)	
□下行脚	□その他()			□変形			9)	(.H .w.)	
						□その他()	4	(有•無)	
r, ロカ!	菌検査	(0 未実施	1 実施)		診断方法は	および結果 :	1.	(陰性	生・降	易性) 2	2. (陰性 ・ 陽性)
胃がんリスク診断 1 ピロリ菌未感染胃粘膜 2 ピロリ菌現感染または 記入					は既感染胃粘膜	[(A.現感染	B.既感	染 C.	現感染、既		
内	1 異常なし			2	萎縮性胃炎					3 胃潰瘍	易(A、H、S)
視	4 十二指腸潰瘍 (A、H、S) 5 鳥肌胃炎									6 胃ポリ	ープ(胃底腺、 過形成性)
鏡 診	7 逆流性食	道炎	(部位 9 術後胃								
断断	10 胃腺腫	11 胃がん (分類) 12 食道がん									がん
	13その他()						ı		
判定区分	1 胃がんな し	2 胃がんなし	_•経過観察	きまれ	たは治療が	必要	3 胃が/	ん疑い	4 팀	がん	5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む)
コメント											方 1 経口 式 2 経鼻
胃がん検診中	中/後の偶発症	走の有無 1	1) なし		2) あり	×2)	あり と回答	答の場合	合は別	紙 偶発症	<u> 定報告書</u> に記載し提出して下さい。
検査医療機関	関および検査	医									

- ※複数の所見がある場合は、所見の部位および所見の種類欄の □に病変番号(①、②、③など)を記載してください。
- ※生検を実施した場合は、結果を精密検査依頼書兼結果通知書に記載してください。
- ※生検を実施した場合は、生検結果を二次読影時に添付して下さい。ただし「判定区分」の4. 胃がん5. 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む) がでた場合に 速やかにご対応ください。

二次読影

追加病変の部位	立 (悪性疾患の疑いがある場合にご記入くだ	泊加売水の紙紙		図解			
□追加病変	なし		追加病変の種類				
□食道(上部	『、中部、下部)□食道胃接合部		□隆起	□陥凹			
□穹窿部	□噴門部 □体上部	□平坦	□白苔				
□体中部	□体下部 □胃角部	□ 大弯	□発赤	□褪色			
□前庭部	□幽門部 □球部	□ 前壁	□出血	□集中			
□下行脚	□その他()	□ 後壁	□変形				
			□その他()			
胃がんリスク診 断	1 ピロリ菌未感染胃粘膜 2 ピロリ菌現界 ず記入	惑染または既感染	₽胃粘膜 (A.現	感染 B.既感染	C. 現感染、既感	染かは不明) 1.2(A.B.C.)のいずれかを必	
-	1 異常なし	2 萎縮性胃炎			3 胃潰症	瘍(A、H、S)	
内視	4 十二指腸潰瘍 (A、H、S)	5 鳥肌胃炎			6 胃ポリープ(胃底腺、 過形成性)		
視 鏡 診 断	7 逆流性食道炎	8 粘膜下腫瘍	馬 (部位)	9 術後	胃	
診断	10 胃腺腫	11胃がん (分	類)	12 食道	がん	
E/I	13その他()						
	0 判定困難 1 胃がんなし 2 胃がんな	:し・経過観察また	は治療が必要	3 胃がん疑い	4 胃がん	5 胃がん以外の悪性病変(疑いも含む)	
判定	生検の評価 (□不要 □妥当 □	追加が必要)		精密検査の必要	長性 1 あり	2 なし	
定	コメント						
	二次読影医 二次読影	日 <u>年</u>	月 日	サイン			

[※]一次読影の所見と異なる場合は、コメント欄に内容を記載してください。 (例) コメント:病変①は胃潰瘍瘢痕ではなく胃がんを疑う。この場合判定

は 3. 胃がん疑いとなり、精密検査の必要性は あり となります。

^{※「0} 判定困難」と判定した場合は、「精密検査の必要性:1あり」とし、画像評価委員会に画像を提出してください。